

二〇二六年三月二日(参加者一五名)

伏目なる楊貴妃観音春うらら	こすもす
番鴨夫唱婦随に水尾かさね	むべ
春燈や楊貴妃観音堂の奥	うつぎ
春日燦子守り観音包むやに	たか子
うたたねの如くに涅槃したまへり	あひる
春天に菊紋瓦勅使門	もとこ
数珠を手に涅槃詣の園児どち	うつぎ
鯉跳ねて春光散らす水面かな	澄子
春泥に長靴重し広野ゆく	勉聖
涅槃図の月煤汚れしてをりぬ	伸枝
園児らの涅槃絵に和す声清ら	わかば
涅槃絵を見上ぐ園児らつむじ並む	あひる
ののさまの教へ涅槃絵もて子らへ	せいじ
天に五指翳し宣誓風光る	えいじ
芽木の風涅槃の堂に届きけり	なつき
春光となりてさ走る笈水	澄子
幼な手の祈りに満ちし彼岸寺	もとこ
春光の綺羅のさざなみ見て飽かず	むべ

ぼけ封じ詣でも兼ねて踏青す たか子
 一水を跨ぐ木道風光る 康子
 涅槃図へ燭一本の揺らぎをり うつぎ

吟行後日句会みの選

二〇二六年三月二日(参加者一五名)